

「男女共同参画と働き方改革：個性と多様性、そして持続力」

京都府立医科大学

特任講座 感覚器未来医療学

教授 木下 茂

男女共同参画についての私の考え方はかなり単純であり、その本質はジェンダーに関係なく「個性と多様性」を認めあうというものである。最も重要なことは、持続力を持って医師、医学者を全うすることであろうと思っている。私は2019年の日本臨床眼科学会で開催された日本眼科医会共催ランチョンセミナーで、この主旨について講演した経緯があり、今回の講演の機会をいただいたものと思っている。

働き方改革という言葉は、医療従事者には、耳に優しく行うは難し、と感じられる概念である。特に、団塊の世代を含む昭和生まれの人達には対応が難しいと感じられる内容と思われる。大阪の医療従事者は、医学生時代に、おそらく緒方洪庵の扶氏医戒之略を学ばれたことであろう。そこには、「人の為に生活して己の為に生活せざるを医業の本体とす」と記載されている。このような医療へ向かう姿勢は、国から提示されている働き方改革とはある意味で真逆の主旨かもしれない。医療の本質と働き方改革関連法の狭間で大いに悩み、そして迷うところである。

今回は、非常に雑駁な講演をとおして私見を述べる予定である。